

PTA

やまがた

第46号

令和4年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 船橋 吾一

山形市大字風間字地蔵山下2068

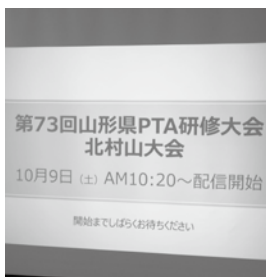
弘栄設備工業株式会社内

TEL 023(676)8693 FAX 023(676)8694

・印刷所・

武田紙工株式会社

山形市和合町1-1-51 TEL 023(622)4187



県P連活動スローガン

『人とひとのつながりを
再確認しよう!』

～愛する子どもたちの健全な育成と幸福のために～

『人とひとのつながりを再確認しよう!』

く愛する子どもたちの
健全な育成と幸福のためにく

山形県PTA連合会会長 船橋 吾一



様々な変化に対応していかなければならない時代となりました。こうした中、山形県PTA連合会は「学びの歩みを止めない」という想いから、今年度は『人とひとのつながりを再確認しよう!』く愛する子どもたちの健全な育成と幸福のためにくのスローガンのもと活動を展開してまいりました。

日頃より山形県PTA連合会の活動に対しご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、それぞれの郡・市PTA、そして各学校・地域社会においても子どもたちの健全育成のためにご尽力いただいておりますことに、心より感謝と敬意を表します。

新型コロナウイルス感染拡大により私たちを取り巻く環境は一変し、

八月の日本PTA全国研究大会北九州大会、九月の日本PTA東北ブロック研究大会盛岡大会は、新型コロナウイルス感染拡大が新たな局面に入り、多くの都道府県で緊急事態宣言が出されている状況になり、完全オンラインでのライブ配信になりました。両大会とも全体会では次期開催地あいさつがあり、山形大会のPR動画の後、リモートで多くの実

保護者と連携した学びや活動について



山形大学附属中学校 校長 早坂 智

昨年度は、コロナ禍における本校の教育活動について報告させていただきましたが、今年度は保護者の方々と連携した活動等について、本校の取組を紹介させていただきます。

子どもたちの健全育成や健康安全のためにも、保護者の方々との連携は欠かすことのできない大切なものです。ましてやコロナ禍である今、これまで以上に大事なものになっていると思います。今年度、本校では県PTA連合会の『人とひとのつながりを再確認しよう!』く愛する子どもたちの健全な育成と幸福のためにくというスローガンを踏まえながら、活動に取り組んでまいりました。その中から二つの活動について報告します。

一つは、保護者の方と教員がともに学ぶ研修会の実施です。今年度は、(株)ティーガイア東北支店 武田幸彦氏を講師として、「インターネットの安心安全な使い方について」のテーマで、インターネットの危険性

やトラブルの防止等について、リモートでご講話をいただきました。このようなネットモラルに関わる研修会については、今後も大切にしていきたいと考えています。

もう一つは、母親委員会による制服リユースに関わる取組です。使用しなくなった制服や運動着等の提供を呼びかけ、集まったものを必要としている在校生や入学予定の小学生の保護者の方々に販売する活動です。さらに加えて、昨年度からこの取組で得た収益金と回収した使い古しのタオルを障がい者施設・事業所へお渡しし、雑巾を製作してもらい学校に納入していただくといったプロジェクトを行っています。昨年度と同様に今年度も実施する予定で、子どもたちの物を大切にする心や共生社会を推進する態度の育成につながるものと思っています。

このような活動以外にも、広報紙「附中だより」の発行や環境美化に関わる校内ワックス作業、合唱コンクール等の学校行事でもご協力をいただいているところです。

これからも子どもたちの健全育成と健康安全に向けて、保護者の方々とともに取り組んでいきたいと思えます。

行委員が揃いのTシャツを着て、山形大会スローガン「人とひとのつながりを体感しよう!」くあがらっしやい精神の山形からくを合言葉にライブ配信しました。

十月の令和三年度山形県PTA研修大会北村山大会は、「つながりよう未来へ 子どもたちの輝く命く家庭・学校・地域と共にく」の大会主題のもと、安心で安全な大会にするためにリモートで開催しました。記念講演では、「命の授業くドリー夢メーカーと今を生きるく」の演題で、「自分と周りの人のドリー夢メーカーとなつて、命の喜ぶ生き方をする」など、これから生きる上で大切にしたいことを学ぶことができました。

山形県内PTA協働参画型発信事業「いじめのない環境をこの山形からは、いじめのない環境づくりに向けて補助金をPTAや企業・団体に交付し事業を展開していただいているものです。昨年度は十八件の申請でしたが、今年度は二十六件ありました。特に企業からの応募が九件あり、それぞれ特色ある取り組みがなされました。保護者の集合体である

第七十三回山形県PTA研修大会 北村山大会開催のお礼



実行委員長 植松 大祐

この度、七十三回の歴史と伝統を受け継ぐ山形県PTA研修大会が、山形県内PTA関係の皆様の大なるご理解とご支援、ご協力により昨年十月に開催できましたことに、衷心より感謝申し上げます。

近年、少子高齢化を伴う急激な人口減少や、地域コミュニティの活力減退など、私たち子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しております。そこに加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により生活の当たり前さえも大きく変化いたしました。

そのような中で、「つながり」の大切さを改めて強く感じております。その「つながり」とは、先祖代々からの「いのち」のバトンをつなぎ、「ふるさと」を愛し未来に心をつなぐことと考え、『つながりよう 未来

企業での取り組みは、いじめのない環境づくりに役立つものと期待しています。子どもたちが健全に成長できる社会づくりのためにも、これからも継続したいと考えています。

コロナ禍においても山形県PTA連合会はあらゆる変化に対応し、「つながり」を大切にしながら私たちの学びを深めてきました。これからも、大きく変化する教育環境に親としてPTAとして出来ることを、歩みを止めることなく学び続けたいと考えています。

さて、いよいよ令和四年に日本PTA全国研究大会山形大会が開催されます。全国からの参加者を、くあがらっしやいくの笑顔で迎えたいと思います。山形県PTA連合会の皆様からの全面的なご協力をお願い申し上げます。

結びに、山形県教育委員会様をはじめ関係各位の皆様から感謝申し上げますとともに、今後ともご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます、あいさついたします。

へ 子どもたちの輝く命く家庭・学校・地域と共にく」を大会主題とし、今大会を開催いたしました。

コロナ禍ではありましたが、「つながり」を大切にしたいとの考えから、リアルでの開催を目指し企画運営を進めてまいりました。しかし、第五波といわれる感染状況の悪化等を鑑みまして、「学びの歩みを止めない」の想いから急遽、県大会初となるリモート開催に変えさせていただきました。急な変更にも関わらず、多くの方々にリモート及びアーカイブにてご参加いただきましたこと、重ねて感謝を申し上げます。

結びに、本大会の開催にあたり特段のお力添えと多大なるご支援を賜りました全ての皆様に改めて感謝申し上げますとともに、山形県PTA関係の皆様の方々のご発展並びに今年八月に開催されます第七十回日本PTA全国研究大会山形大会の大成功をお祈りいたしまして、お礼の挨拶いたします。



県PTA母親委員会
委員長
高見佳澄

山形県PTA連合会母親委員会の活動に、ご理解ご協力いただきまして、ありがとうございます。各郡・市PTAの母親委員会におかれましては、コロナ禍において、感染防止に努めながらできる限りの活動をしていただきありがとうございます。

県PTAの母親委員会においては第一回・第三回の委員会は開催、第二回・第四回の委員会は書面会議と、コロナの感染状況を見極めながらの開催となりました。「いのちの尊さ大切さ」のテーマのもと、各郡・市の代表の方々と子どもたちの様子や、各郡・市PTAの母親委員会の活動について情報交換を行っています。親学「視察研修の活動は、山形市PTA連合会と山形市PTA連合会母親委員会共催の「いのちの大切さ学習会」に参加し情報リテラシーについて学びました。ぜひ皆様にもご一読いただき、家庭でのインターネットにおける正しいルールや注意点をもう一度見直していただければ

幸いです。男女平等がさげばれ、「母親委員会は時代遅れ」「母親委員会なんていらぬのでは？」とのご意見を毎年のようにいただきます。しかし、山形県は多くのお父さん方がPTA会長として活躍してくださる県です。そのため、母親委員会は、子どもにとって一番身近な存在である「お母さんの想い」を聞くことができる大切な場と捉え、母親同士のネットワークの素晴らしさや母親としての細やかな心づかいなどの利点を生かし、父親のみならず子育てに関わる方々と「子どもたちの為に何ができるのか」「お母さんだから女性だからこそ気付き発信できること」を共に考え、活動につなげていきたいと思っています。

どんなに時代が変わろうとも、子どもに必要なのは、私たちの無償の愛とスキンシップということに変わりはないと思います。また、子どもたちの抱えている課題を解決するには、親同士がつながり、情報を共有することが重要ではないかと思えます。このような時だからこそ、子どもとの「かわり」と親同士の「つながり」を大切にしながら、母親委員会は活動してまいりたいと思えます。

日本PTA全国研究大会北九州大会に参加して



県PTA連合会
副会長
穴沢洋一

「じりつ、創造、尊重、調和、そして成長」のスローガンのもと、第六十九回日本PTA全国研究大会北九州大会が八月二十一日に開催されました。

年度当初、北九州での大会参加を実に楽しみにしていました。が、新型コロナウイルス感染症という世界的規模の難局の中、自宅PC前にてオンラインでの参加となりました。冒頭日本PTA清水会長の言葉の中に「コロナ禍において多くの事業が中止されている困難な状況の中にあっても、私たちが学びの歩みを止めるわけにはいかない」と、お話をされました。昭和二十八年の第一回大会以降、一昨年の兵庫大会まで途切れることなく開催されてきたこの大会は昨年、富山大会が止む無く中止となりましたが、今大会は各地域が抱える様々な問題を解決するための鍵を見つけ出す絶好の機会とされています。我々が所属する郡・市・町・単PTAにおいても様々な活動が制限されている中、本大会の目指すところを模範とし、活動しなければならぬ次期開催

地、山形のPRも思いが伝わる素敵なものでした。

午後一時からの全体会に続き、午後二時から記念講演（トークセッション）と進みました。通常の分科会形式とは違い、一種のエンターテインメントを視聴するような感覚で参加することができました。中でも「これからのPTAに期待すること」のテーマのもと論議された工藤勇一先生（鶴岡出身）曰く、現在のPTAは外部評価的になっていくと提言されました。PTAはもともと学校運営を担わなければならないということでした。学校行事のお手伝いや講習会の開催だけでなく、もっと教育の当事者にならなくてははいけないと感じました。

大会趣旨にあるように、変化のなかで子どもたちは成長し続ける。柔軟に対応するには生きる力を身につけること、家庭、学校、地域が一緒になって積極的に子育てを行っていく共育が更に重要とあります。この度大会に参加し、PTAの現状の確認と今後を見据えた改革、延いては子どもたちの成長のための良い機会となりました。



各地区の活動報告



【令和3年度 母親委員会】

《山形市》

- ・テーマ「いのちの尊さ大切さ」～かわる喜びつなげる心～
- ・定例母親委員会3回（5/11・6/21・2/15 書面会議）
- ・拡大母親委員会1回
研修：「いのちの大切さ学習会」（県P親学補助事業利用）
講師：小木曾 健 氏（情報リテラシー専門家）
- ・“親学”家庭教育視察研修（山形市青少年指導センター視察）
- ・母親委員会日より「マザーズねっとわーく」No.26 発行

《西置賜地区》

- ・地区母親委員会（中止）
- ・地区PTA研修会への参加

《天童・東村山地区》

- ・母親委員会総会（中止）
- ・母の集い（中止）
- ・「母親委員会日より」発行

《上山市》

- ・母親委員会1回（中止）
- ・保護者研修会上山市の教育講演会と同時開催
演題：「家庭でして欲しい、いのちと性の話」
講師：井上聡子 氏（さとこ女性クリニック院長）

《西村山》

- ・委員会（書面会議）
- ・代表委員会（書面会議）

《東置賜地区》

- ・地区Pでは組織化されず活動なし（単位P3校での組織・活動あり）

《米沢市》

- ・定例母親委員会2回（書面・2月）
- ＊活動報告・情報交換等

《東田川郡》

- ・定例母親委員会
- ＊活動報告 ＊情報交換等

《酒田飽海》

- ・母親委員会（情報交換・講演会）
講演：「夢の現実に向けて」
講師：伊藤豊継 氏（ダンス講師兼振付師）
- ・酒田飽海P研修大会への協力

《最上地区》

- ・地区母親委員会1回（講演会）
研修：「現代の子育て、親育ち」
講師：寒河江亜衣子 氏（公認心理師・臨床心理士）
- ・代表母親委員会2回
- ・母親委員会日より「かあちゃんホットライン」発行

《北村山》

- ・村山市P：委員会 / 読み聞かせ / おたより発行
- ・尾花沢市P：委員会 / おたより発行
- ・大石田町P：母親交流会 / 「母親伝言板」発行
- ・東根市P：組織なし

《鶴岡市》

- ・鶴岡市P連研修大会への参加（正副委員長のみ参加）
- ・市教育委員会との教育懇談会（中止）

東北ブロック研究大会盛岡大会から



県PTA連合会
副会長
大熊孝幸

令和三年度 第五十三回日本PTA東北ブロック研究大会が『東北の大地に根ざし、希望と幸いを求め、生きる力を育むPTA活動をめざして』先人から学び、新しいPTA活動の在り方を探るⅡ』を大会主題として岩手県盛岡の地で開催されました。コロナウイルス感染が広がる中、内容等が変更になりましたが、これからのPTA活動や家庭教育に関することも多くの方に対して学びの機会となりました。

大会当日は、全体会と第三分科会がリアル配信となりました。第三分科会の内容は、基調講演が家庭教育『あーよかったなあなたがいって、く優しさという温かい貯金』の演題で仲島正教氏による講演でした。「不易流行」と言う言葉の通り、教育も子育ても時代の流れと共に変化していきませんが、昔と変わらぬ大切なものがあり、今のSNSはじめ、情報化の中で子育てや教育の中の「不易」とは自分自身改めて考えさせられました。お話の中で子育てや教育の「不

易」とは、「愛」や「優しさ」で、子どもたちの心には銀行があり、その「心の銀行」にたくさん「愛」や「優しさ」を貯金出来れば子どもは大丈夫だということ、子どもたちの自尊心や自己有用感、この「愛」や「優しさ」の貯金によって育まれていくと言う貴重なお話でした。

パネルディスカッションでは、『子どもの個性を伸ばそう。そして共に学び合おう。子育てと親育ち。』ということで、大変中身のあるディスカッションでありました。

はじめは、ウェブ開催ということで、臨場感やリアルで聞く言葉の力など、不安はありましたが、運営の素晴らしいさやわかりやすい内容で心に大変響きました。本来であれば開催するであろう全体会のアトラクションなどが無かったのは寂しい気持ちですが、今後、東北のPTAが一同に集まるこの大会をリアル開催出来ることを心より祈念いたします。



親子読書・地域の活動



朝の『読み聞かせ』の時間

天童市立蔵増小学校PTA

蔵増小学校では授業前の朝、「青い鳥」(保護者と卒業生の保護者の皆さまにより「読み聞かせ」活動を行っていた)だいております。

——青い鳥『読み聞かせ』——

『読み聞かせ』は、学年にあった本や季節にあった本、おすすめの本などを各自選び、下学年一回、上学年一回の基本月二回、水曜日の朝活動の時間に行い、今年度は年間各八回、計十六回の実施となりました。

コロナ禍で、マスクをしての読み聞かせの時間となりましたが、朝の十分間、子どもたちが絵本の世界を楽しむ貴重な時間となっていると思います。

子どもたちは、楽しそうに反応しながら聴いています。マスクをしていても、楽しい雰囲気になります。

朝の十分間という短い時間ですが、読み聞かせの時間を通じて、子どもたちが、いろいろな本と出会い、心が豊かになればと思います。



本との出会いを大切に……

上山市立宮川小学校

本校では、本好きな子どもを育てるために、地域のボランティアの皆さんや保護者の協力をいただきながら、様々な読書活動に取り組んでいます。

——『読み聞かせ』——

月に一回、読み聞かせサークル「スプーンの会」の皆さんから、読み聞かせしていただいています。日頃、自分たちでは選ばないような本を読み聞かせてくださるので、子どもたちは新しいお話と出会うことができます。

時には方言も交えながらの語り口に、その世界へぐいぐい引き込まれています。



『親子読書』

夏休みを利用して、毎年親子読書に取り組んでいます。親子が同じ本を読むことで、その本の楽しさを分かち合うことができました。その一冊が親子にとってますます好きな本になったりしています。

親子読書を行うことで、とおきの一冊と出会うことができました。



言葉の力を育み、豊かな心を育てる読書活動

米沢市立松川小学校

本校では、言葉の力と豊かな心の育成を目指して、学校、地域、家庭が連携し読書活動を展開しています。

親子読書まつり

年に一回、読み聞かせボランティア「ミッケ隊」や外部指導者、大山小児童の協力を得て、みんなに楽しんでもらえるような読書まつりを企画しています。



おたより「ばんけ」の発刊

二ヶ月に一回程度、本の紹介や回し読みの感想、読み聞かせや楽しい遊びを紹介しています。



親と子が本を通して心の交流をはかるPTA活動

鶴岡市立大山小学校

本校では、五十年以上前から親子読書に取り組んでいます。本校校舎内にPTA親子読書部が運営する「親子ふれあい館」を設置し、家族で読書を楽しめる、独自の読書活動が続けられてきました。

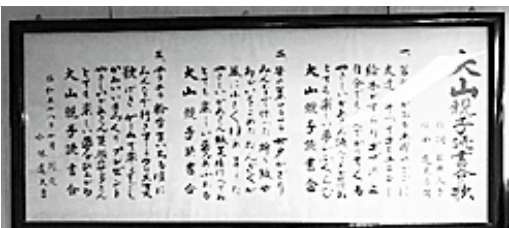
今年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため、「回し読み」の活動に限って実施しました。

——本の貸し出し——

年十二回、土曜日に「親子ふれあい館」を開放し、図書の貸し出しや読み聞かせの活動を行っています。

——回し読み——

各クラス、五、六人の回し読み班をつくり、役員が選本した図書を班ごとに回し読みします。読み終えたら、親子で感想を書き、次の人へ回していきます。



▲大山親子読書会の歌

山形県PTA 連合会「親子読書推進委員会」

親子で読書 深める絆



～本を読む子はかならず伸びる～



山形県PTA連合会では、親子読書をととして生涯学習を進め、親子で学び、親子でコミュニケーションを活性化することにより、親子の絆が一層深まり、子どもの心が豊かになることを願い、運動を推進しています。

す。地域ボランティアによる月に二度の読み聞かせと図書館の整備、長期休業中の親子読書の取組などとおして、本に親しむ子どもたちの姿が日常にあふれています。

——充実した読み聞かせ活動——

児童は、読み聞かせボランティア「ブックワーム」さんによる読み聞かせをとでも楽しみにしています。読み聞かせが終わると図書館の整備も。本を読みたくなる、わくわくするような図書館にしてください。



上学年が下学年に読み聞かせ。「どんな本を読んであげようか」「どんな読み方がいいか」相手を思つて工夫します。



かえるくんのこわい夜

2年1組 ○○○○

マグロが本を読みたくいけど、マグロはとまっていらなくて、くるくるおよいでヒラメに本を読みたくことをつたえていたのが、おもしろかったです。これからたくさん読みたかったです。

お父さんより

七十七ページある本を一人で読んでいました。私もそのあと読んで、二人で感想を言い合いました。「○○がおもしろかった。」「○○が楽しそうだった。」など、一冊の本でたくさん話せて、とても楽しかったです。これからも一緒に本を読んでいきたいです。



優良PTA文部科学大臣表彰

「伝統芸能の伝承や環境整備を核とし、
地域と密に連携したPTA活動」

村山市立富本小学校PTA会長 笹原 太



一、はじめに
本校は、村山市西部、葉山の麓に広がる里山地帯にある。豊かな自然に恵まれ、裏山には学校林や広大なスキー場があり、これらを活用して「森林学習」「アルペンスキー」といった特色ある教育活動を行っている。

児童数は五十五名、PTA会員数は三十八家庭で、年々減少の傾向にある。児童の家庭は三世代同居が多く、代々この地域で暮らしている家庭が多数である。地域住民の富本地域に対する愛着は深く、子どもの教育に関しても高い関心を持っており、大変協力的である。

二、特色ある取り組みについて

(一) 四十年以上続く郷土芸能伝承
本PTAでは、各学年で様々な事業を企画し、子どもの健やかな成長

を支援するとともに会員同士の親睦も深めている。そうした事業の中で四十年以上の長きに渡って続いているのが、小学五年生の時期に全員で取り組む伝統芸能「大黒舞」の伝承活動である。

学年PTAが主体となって、地域の方に指導をいただきながら、六月～十月の毎週火曜日の夜に練習を行っている。保護者も、多くが小学生時代に大黒舞を経験しているため、練習への取り組みは大変熱心である。

子どもたちの舞は、元氣一杯、豪華絢爛で、地域の方々からの評判が大変良い。毎年、富本地域敬老会や村山市の伝承館まつり、学習発表会等の催事で練習の成果を披露している。平成三十年度は、山形県観光物産協会主催の「日本一さくらんぼ祭り」に出演した。

(二) 学校・地域と一体となった環境整備等

学校の裏山にあるスキー場は、六十年ほど前に地域住民が林を伐採して手作りして整備したものであり、昭和六十年には蔵王スキー場で使われていたロープトウも設置された。

管理運営は、学校、PTA、学校後援会、地域のスキー愛好会が協力して担っており、夏場の草刈りや冬場のロープ設置・撤収は、主にPTAが主体となって行っている。学校の体育の授業として活用している他に、一月の土日には地域の子どもにスキー場を開放している。土日のロープトウの運転は、PTAの全会員による当番制で行っている。

(三) 自然教育を充実させるための環境整備

本校では、後援会や地域ボランティアの協力のもと、豊かな自然を生かした「森林学習」を行っている。本校PTAは、こうした恵まれた自然環境を守るとともに、子どもたちがその中で安全に学習することができるように、全会員で環境整備に取り組んでいる。

平成二十六年には、学校後援会が主体となりPTAも協力して松の植樹を行った。また、毎年二回実施されるPTA環境整備作業では、全会員が参加して樹木の枝払いや草刈りなどを行っている。

(四) 持続可能なPTA活動を目指した組織・事業の見直し

本校のPTA会員数は、ここ十年で半減した。今後も児童数やPTA会員数は減り続けることが想定されたために、令和元年度にPTA規約を見直し、組織のスリム化と事業の整理を行った。専門部の数や常任委員の人数、時期的な重なりが多かった各種事業が整理され、会員の過度な負担が解消された。

三、成果と今後の方向性

各事業への参加率が非常に高く、活動に前向きな会員が多い。「全員参加型の自主自立的なPTA活動」が良き伝統として受け継がれている。

本校PTAの大きな特色である大黒舞や森林学習は、子どもたちや学校、保護者、地域にとつての誇りとなっている。今後も充実した取り組みを続けていくために、指導者などの人材の確保や引継ぎの仕組みの整備を進めていきたい。



優良PTA文部科学大臣表彰

地域・家庭・学校が共に創るPTA活動
～学校運営協議会との連携を図りながら～

遊佐町立遊佐中学校PTA会長 高橋 智



一、はじめに

(一) 本校の概要
本校は生徒数二六四名、遊佐町唯一の中学校であり、平成五年設立以来、今年度で創立二十九目を迎える。自然に恵まれたのどかな環境にあり、保護者・学校・地域をつないだ活動を継続している地域と共にある学校である。平成三十年度からは、学校運営協議会との連携を図り、今年度で四年目を迎えた。町のバックアップを受けながら、地域全体で子どもたちの資質能力を育む意識の高揚、郷土愛の醸成に努めている。

(二) 本校のPTAの重点目標

～守破離の思想に重ねて～

① 遊佐中学校PTAの『守』
(型・・・基本を守る)
○先生と保護者の信頼関係を築くために、些細な事でも積極的に話し合い、子どもたちが過ごしやすい環境づくり「より良い学

校」を共に創造していく。
遊佐中学校PTAの『破』(自分たちに合った活動)

② 同じ目的で「より良い学校」を構築していくためには、人々との思いの繋がりが重要である。クラス活動に多くの会員の協力を得られるよう、より参加しやすい事業を創りあげていく。
遊佐中学校PTAの『離』(時代に沿った自由な活動)

○コミュニティスクールの四年目を、地域の皆さんと共に協力し、知恵を出し合い一緒に協働しながら進める。時代に沿った活動を意識し、円滑なPTA活動の実践に努める。

二、特色ある取り組みについて

(一) 地域と共に行う諸活動

総合学習において、子どもたちの体験活動の支援を行っている。
一学年「地域探訪」では、遊佐町各地域の良さを学び、地域に生きる

喜びを感じ得させるために、自然の美しさ、食の豊かさ、伝統芸能、地域の偉人など地域文化を伝える支援にあたっている。

二学年「職業人に学ぶ」では、「仕事に就く意義」「充実感」「困難をいかに乗り越えてきたか」などを子どもたちに語り、職業意識の高揚にあたっている。

三学年「砂防林整備」では、保護者も一緒に砂防林の整備を行うことで、自分の住む地域のことを親子で学ぶいい機会となっている。自分の住む地域が様々な人の協力により守られていること、遊佐町の良さを次の世代につないでいかなければならないことに改めて親子で気づく貴重な活動である。

また、子どもたちが地域の行事に積極的に参加し地域づくりの担い手になるよう、地域学校協働活動推進員が各地区の「まちづくり協議会」をつないでいる。

(二) 会員相互の学びに関する諸活動

校長が示す学校運営を通して、どのような能力を子どもに身に付けさせたいか理解し、その実現に向け家庭はどのような手立てができるか、また学校や地域とどのように連携し取り組んでいくかを研修している。具体例として、研修委員会が主体となり、適任講師を招聘しての研修会を開催している。
また、町主催の子育てフォーラムへも多くの保護者からの出席を得て

おり、会員相互の学びに関する関心の高さがうかがわれる。

(三) 持続可能な社会へ向けての活動

母親委員会による制服のリサイクル活動は、互助の心、物を大切にする心の育成に成果を上げている。UHCRCとファーストリテイリング社が取り組む「届けよう、服のプロジェクト」に参加し、SDGsの概要やリサイクルの意義、服にはどのようなチカラがあるのかなど、自分たちにもできる社会貢献があることを学んでいる。

三、成果と今後の方向性

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に伴い、かつて経験したことのない、異例の日々が続いている。その中でも、「できる範囲で知恵を出し合いながらの活動」が行なわれていることに改めて会員に厚く御礼申し上げたい。

四年目となる学校運営協議会には、今年度から子どもたちの代表も参加し、子ども・地域・保護者が一体となって、よりよい学校づくりへ向けた意見交換が行われた。校長が掲げる目指す学校の姿「ひとつになり、ひとりになる学校」をPTAとしても思いを共有し、土台づくりを支えていきたい。時代の変化とともに変わりゆく活動を、皆さんの協力のもと、今後とも負担なく進め、持続可能な活動にしていきたい。

一、はじめに

山形市立第三中学校は、山形市の中心部に位置し商業施設が建ち並ぶ山形駅西口に隣接する、創立七十四周年を迎えた全校生徒六五一名の大規模校です。三中学区は、七日町、十日町、山形駅周辺の山形一小、二小、六小とあかねヶ丘陸上競技場北部の十小、西部の宮浦小の五つの小学校区から成ります。「自主・自立」を校是とし、校友会活動（生徒会活動）、PTA活動ともに自ら考え自ら実践することを理念として活動しています。

この度、本校PTAは令和三年度「日本PTA全国協議会会長賞」を受賞する榮譽に恵まれました。この名譽ある賞を受賞出来たのも、今日に至るまで関わって頂いたPTA諸先輩方、現会員の方々、地域の皆様そして教職員の皆様のご尽力の賜物です。心より感謝申し上げます。

二、特色ある取組について

「絆でつなげる 学校・家庭・地域」
ピンチをチャンスに！明るい未来へ！

今年度の活動スローガンです。コロナ禍の厳しい状況だからこそ、より一層「絆」を深めて学校と家庭と地域のつながりで三中生の飛躍を応援しよう、この思いを込めたものです。チャンスに変えることは困難でしたが、皆で知恵を絞りやれることを模索しながら温かいPTA活動を

目指して参りました。取組を紹介いたします。

(一) つなぐを大切にしたい組織構成

PTA幹事会を中心とし、生活指導部、環境整備部、保体部、文化部の四つの専門部と母親委員会が、正副学年委員長を中心とした各学年と協力して学校全体のPTA活動を運営しています。

(二) 生活環境の整備と点検活動

① 『我が家のネットルール宣言』

体制を整えております。

③ 環境整備部主催の学校整備活動

年二回、生徒と保護者と教職員による校地の美化活動を行います。春は校地の除草や清掃、秋は花壇やプランターへの植栽により教育環境の整備を行っております。

(三) 親子の関わりを大切にしたい活動

学年毎に、つながり強化を図り風通しの良いPTAにするために親子行事を行っています。各学年それぞれ

優良PTA日本PTA全国協議会会長表彰

「絆でつなげる 学校・家庭・地域」 温かいPTA活動を目指して



山形市立第三中学校PTA会長

佐藤 清徳

個々の家庭がSNSに対して臨むべき姿を、生徒と親が様々な観点から話し合いを持ち、宣言という形で実行していく活動を行っています。一学期間の活動を振り返り、夏休みに再度家庭で話し合い、取組を決定し実施していく流れになります。

② 生活指導部による下校指導

繁華街の通りや学校から離れた通学路、交通量の多い交差点等に立哨し、生徒たちが安心して下校出来る

れ目的を持って工夫して取組んでおります。また、一学年の三学期に、進路に関わる研修会において、各方面で活躍されている保護者の方々に職業人講師の依頼をし、生徒たちに将来に向けた話しをする機会を設けております。

(四) 母親委員会の取組

夏休み中、家庭内の関わりを深めるために親子で料理を作り、そのレシピを紹介する「おすすめレシピ」

今回、このような榮譽ある賞を受賞させていただき大変嬉しく思っております。これもひとえに、日頃より温かく見守り、支えていただいた地域の皆様、そして校長先生をはじめとする教職員の皆様のおかげと、心から感謝申し上げます。

本校は、置賜盆地の北部、長井市の北側に位置し、学校の東側には最上川が流れ、西側には朝日山系の雄々しい葉山の嶺を仰ぎ見ることができ、自然豊かな場所にあります。創立百十年を超える伝統校であり、開校当時は五百名を超える児童が在籍していましたが、本校も全国的な少子化の波を受け、現在は百二十五名になっています。校是である「和致芳（わちほう）は地域の合言葉でもあり、致芳の心「和・敬・努力・郷土愛」を父母と教師、子で育み、互いに協力しながら、たくましく自信あふれる子どもの育成を目標としています。

PTAの組織として、事務局・研修部・環境衛生部・母親倶楽部委員会・学年部会で構成されており、会員の協力によって、学校・家庭・地域社会における子ども達の健全な成長を図っています。

一、本校の特色ある取り組み

(一) 全PTA会員による継続した実践

① 事務局

致芳小学校見守り隊とPTAが連携して、街頭での交通安全指導を

学期に二回程度実施し、安全な登下校について呼びかけている。PTA事務局が主体となって、全PTAで学期毎に一回、校門前や街頭でのあいさつ運動の実施を行っている。

② 研修部

PTA会報「おぞら」を二回発行。食への関心・生きる力・コミュニケーションの向上を目的とした「弁当の日」の実施。家庭生活に係る研修会の実施を行っている。

⑤ 学年部会

学年行事の実施（親子のコミュニケーション・多様な体験）、SNS利用のルール作りなどを行っている。

(二) 地域との協働活動による実践

地域コミセン事業とPTA活動の連携で、地域に開かれた学校を目指し、教育理念の共有や子どもの資質能力の明確化を図りながら学校教育を展開していく中で、PTAとして活動したいくつかを紹介します。

優良PTA日本PTA全国協議会会長表彰

子どもを中心にすえた 学校・家庭・地域の 連携を目指す



長井市立致芳小学校
父母と教師の会会長

牛澤 栄一

③ 環境衛生部

体力づくりのための学校内のマラソンコースの整備。学校内の除草作業の企画運営。運動会への協力を

④ 母親倶楽部委員会

アウトメディアデーの実施（心のパワーアップ活動や読書による学力向上）、母親委員会だよりでの情報共有、母親による情報交換及び勉強会、本の読み聞かせを行っている。

① 一年生学年部会行事

例年致芳コミセンとの共同企画で致芳小学校区内でのウォークラリー大会を実施している。この活動は親子、家族と家族、地域と家族をつなぐものであり、さらに地域を考えるきっかけになることを目的に行っている。

② 六年生学年部会行事

「八年後の自分へ」というテーマで致芳コミセンとの共同企画でタイム

を企画し、A4用紙一枚程度で作成したものを校舎内に展示します。また、リサイクル活動の一環として、使わなくなった制服や三中方バン、運動着等を全家庭に案内し協力を頂き、「おゆずり会」の場を設け、それぞれ数百円程度で販売しています。

(五) PTA文化部の活動

学期末に各一回の年三回、PTA広報紙『若葉の旅』を発行し生徒の様子やPTA活動の様子等を各家庭に紹介し共有化を図っています。また、生徒が気軽に本を借りて親しむ機会を増やすため、年一回「PTAおすすめ文庫」として保護者からのアンケートを基にして、図書館の蔵書を補充し充実を図っています。

三、成果と今後の方向性

組織で活動し、つながりを感じながら各々が活動出来ていることは、三中PTAの強みです。保護者の姿は少なからず生徒たちに反映されており、『自主自立』の精神の下、落ち着きの中にも積極的な学校生活につながっていくものと思います。今後、学校と家庭との関係、生徒と親との関係等、三中PTAとして示していきたい活動を積極的に推し進めていきたいと思っています。

カプセル事業を実施した。コロナ禍で様々なものが縮小や中止になる中「こんな時だからこそ特別な経験をさせてあげたい」という六年保護者と「大人になりどんな立場であろうと故郷致芳を思い出してほしい」という地域コミセンが協力して事業を立ち上げ実施した。

③ 学習発表会動画配信

子どもたちが日頃の学習の成果を発表する機会として毎年開催している。今年度は当初、地域の方々にもご来場いただいたたいと考えていたが、新型コロナウイルスの感染予防対策として、低学年、中学年、高学年と分かれて実施し、動画での配信を実施した。

二、成果と今後の方向性

致芳コミセンとの協働活動など新しいことにも積極的に前向きに取り組んでいこうという意欲を会員の中より感じられた。コロナ禍であり難しい活動環境の中にあっても、万全の予防対策をとり、可能な活動の実践を積み上げることができたと思う。しかし、少子化の中で会員が減る傾向はこれからも続くと考えられる。「できることはできる、できないことはできない」を見極めながら、さらに地域と協働しながら活動内容を考え、子ども中心のPTA活動の実施を今後も行っていく。

東北ブロックPTA協議会会長表彰

学校・家庭・地域が ともに歩むPTA活動

未来へ向けて「今」できることを

山形市立第二小学校PTA会長 小林寛人



一、はじめに
本校は明治二十二年に創立し、今年度一三二周年

を迎える歴史と伝統のある小学校である。明治時代に起きた大火から校舎を守ったのが、校庭にあった藤棚であつたという由来から「ふじのお

かげ」ふじかげ、「子どもたちは「ふじかげつ子」と呼ばれる。現在、校庭には三つの藤棚があり、子どもたちを優しく見守り続けている。「輝く未来の星 ふじかげの子どもを育成する」という学校教育目標の具現化に、学校・家庭・地域が一体となり取り組んでいる。

二 具体的な取り組みについて

(一)六つの専門部の取り組み

① 文化部

学区にある西部公民館の活動「公民館祭」に協力し、出店や屋台への参加の他、子どもたちの作品を掲示している。子どもやその保護者が参加することで、地域も活発になっている。また、毎年、講師を招聘しての研修会を企画している。

② 広報部

学校での子どもたちの様子やPTA活動を知らせる広報「ふじ」を発行している。編集会議で内容を決め、原稿の依頼や編集作業を行っている。

③ 生活指導部

生活指導部は各学年選出の役員と地区からの選出の役員で構成されている。本校は通学班ではなく自立登校をしているため、交通指導員の方の協力に加え、月二回の交通安全指導をPTA活動でも行っている。また、地区の町内会長、地区の有志の方

から登下校の見守りにも協力していた。また、地域ぐるみで子どもたちの安全を守っている。

④ 体育部

運動会でのテント立てや用具の準備などに協力し、子どもの活動を支援している。また、PTA球技大会や、親子スキー教室の企画、運営などを行い、子どもや保護者の体育に関する事業を積極的に行っている。

⑤ 環境整備部

各学年選出に加え、地区選出の役員で構成している。各地区の資源回収のとりまとめを行い、収益金は学校の整備や子どもたちの活動に還元している。

⑥ 母親委員会

サイズが小さくなり、本人が着ることができなくなった体育着を希望者にゆずる「おゆずり会」を企画している。年二回のおゆずり会は人気も高く、まだ十分に着ることができると体育着をリサイクルするという点でも好評である。

(二)読み聞かせボランティア

保護者による読み聞かせを月に二回程度、朝学習の時間に行っている。子どもたちは目を輝かせ、お話を聞いている。中には、子どもが小学校を卒業した後も、読み聞かせに協力し

東北ブロックPTA協議会会長表彰

『学校・家庭・地域が連携し、 自立心を養い、思いやりのある 子どもたちを育てよう。』

上山市立南中学校PTA会長

鈴木世志樹



一、はじめに
本校は、昭和四十六年四月に上山中学校と西郷中学校の分離統合によ

り創立した学校である。開校当初は、生徒数が多かったため「上山校舎」と「西郷校舎」に分かれて授業を実施した。近年では、生徒数の減少により、令和三年度は、三二四名、十クラスで活動している。少子化によるPTA会員数減少に伴い、組織を見直し、スリムな組織へと改革を行った。また、今年度は創立五十周年を迎え、PTAが主体となり、同窓会や地域との連携を図り、「地域子ども見守り型」で子どもたちの成長をバックアップする体制を確立した。

二 特色ある取組について

(一)あいさつ運動

春は中体連前、秋は新人戦前の延長部活動に伴って、子どもたちの帰宅時間の通学路を、PTA理事が車による巡回パトロールをし、また、各

クラスの常任委員が昇降口に立哨し、子どもたちへの声がけ、あいさつ運動を行っている。

(二)地域連携事業

① 石崎神社例大際時巡回パトロール

毎年、七月十五日に学区内で石崎神社例大際が行われ、きゅうりをお供えすることから、「かつば祭り」と言われ、祭礼のときには必ず雨が降るとも言われているお祭りであり、そのお祭りで、子どもたちが事故や事件に巻き込まれないように、近隣の小中学校とも連携しPTAで、巡回パトロールを行っている。

② 地区ふれあいの日 地域清掃活動

毎年、七月の第一日曜日の早朝に、町内の地域ボランティア活動として、各町内会とPTA社教部が連携し、生徒、保護者、地域の方々と、河川清掃を行っている。子どもたちは、勤労の尊さや、地域とともに助け合う心、社会奉仕活動の精神などを、体験活動を通して養っている。

③ 学区内PTAの連携協働

「学区三校連絡協議会」を発足し、学区内の小学校PTAとの連携を図っている。中学校の定期テスト一週間前になると、その期間に合わせて、小学校で読書週間を実施してもらうことで、家庭でのメディアコントロールを推進している。また、小学校PTAと共同で、家庭で「子どもたちと、保護者が一緒に茶の間で読書」を推進し、呼びかけを行っている。

(三)地域への情報発信

PTA広報部を主体としPTA広報誌「あかしや」を年に二回発行しており、先生方の紹介や、子どもたちの活動状況などを発信している。おもしろく読みやすい誌面で、PTA会員のみなならず、地域の方々に情報発信を行っており、PTA活動への関心を高めることにつながっている。現在まで一二八号の発行を行っている。

(四)家庭教育支援

教育講演会を毎年実施し、数多くの保護者の方々の参加があり、好評となっている。

(五)学び支援事業

① 職業人講話
子どもたちは、真剣に自分の未来を想像しながら、前のめりに話を聞いている。

② 進路研修会

各学年で、先生方とPTA学年部が協働して、子どもたちの希望進路の実現のため、保護者向けに年一回、平日の夕方開催している。

てくださる方もいる。

(二)各学年の親子行事

毎年、学年の役員が企画、運営を行っている。昨年度はコロナ感染症防止のため実施できなかったが、令和元年度は味噌作りや陶芸教室など、親子で楽しめる、思い出に残る活動を行った。

三 成果とこれからの方向性

今年度は誰もが無理なくできる持続可能なPTA活動を目指し、「未来へ向けて『今』」できることをスローガンに新しい試みを行ってきた。本校の児童数は年々減少しており、それに伴いPTA会員数も減少している。また、コロナ禍で事業の中止や削減が行われた。これをPTA活動の見直しや、改善するきっかけと考え、来年度の組織や役員数、活動の精選に取り組んだ。伝統を守りつつ、新しいことを柔軟に取り入れ、学校・家庭・地域がともに歩むPTA活動こそが、子どもの笑顔と未来を作っていく。コロナ禍だからこそ、人のつながりを大切にしながら、これからも活動を進めていきたい。

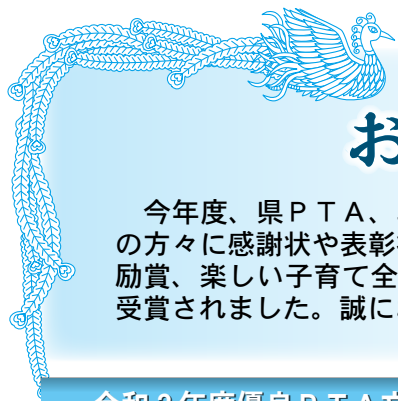
三 成果と今後の方向性

会員数の減少に伴い、組織を見直し、スリム化し新たなPTAの形となったことで保護者の負担を軽減することができた。会議数の精選、協議内容を事前通知、会議時間の短縮で、保護者と先生方の負担軽減を図ることができた。また、役員人事を小学校六年時にアンケートをとる希望制にしたことで、積極的にPTAの輪を拡充できている。保護者が前向きにPTA活動に参加することで、PTA活動全体の向上や、子どもたちの積極性にもつながっている。

一方で、メディアとの関わり方については、家庭や学校においても、深刻な問題と考えており、学区三校連絡協議会を活かし小学校と連携を強化し、「メディア」で、適切な付き合い方、自分自身のメディアコントロールを習得することがこれからの重要な課題であると痛感する。

最近、新型コロナウイルス感染症対策が、子どもたちの学校生活やPTA活動に多大な影響を与えている。このような時だからこそ、PTAが主体となって、「学校・家庭・地域が連携」して、子どもたちの、育み、歩みをサポートする活動を行っていききたいと考えている。

最後に、今般の優良PTA東北ブロックPTA協議会会長表彰は、他ならぬ諸先輩方をはじめとする地域の方々のご理解とご協力があったものと実感している。この場をお借りし感謝申し上げます。



栄えある受賞 おめでとうございます

今年度、県PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状が贈られました。また、PTA広報紙も全国コンクールにおいて奨励賞、楽しい子育て全国キャンペーン三行詩コンクールにおいて厚生労働大臣賞・佳作を受賞されました。誠にありがとうございます。（敬称略）

令和3年度優良PTA文部科学大臣表彰

（団体）
村山市立富本小学校PTA
遊佐町立遊佐中学校PTA
山形県立楯岡特別支援学校PTA

令和3年度日本PTA全国協議会会長表彰

- （団体）
山形市立第三中学校PTA
長井市立致芳小学校父母と教師の会
- （個人）
園部 幸春 山形県PTA連合会前副会長（酒田飽海）
金子 一志 山形県PTA連合会前副会長（北村山）
茂木 健 山形県PTA連合会前副会長（西村山）
村山 良光 山形県PTA連合会前事務局長

令和3年度東北ブロックPTA協議会会長表彰

- （感謝状）
佐藤 博之 山形県PTA連合会前会長
村山 良光 山形県PTA連合会前事務局長
- （団体）
山形市立第二小学校PTA
上山市立南中学校PTA
- （個人）
黒田 紀章 山形県PTA連合会前理事（上山）
阿部 秀顕 山形県PTA連合会前理事（天童・東村山）
高橋 臣也 山形県PTA連合会前理事（最上）
佐藤 大輔 山形県PTA連合会前理事（米沢）
安部 直樹 山形県PTA連合会前理事（東置賜）
鈴木浩一郎 山形県PTA連合会前理事（西置賜）
後藤 春雄 山形県PTA連合会前理事（鶴岡）
阿部 一道 山形県PTA連合会前理事（東田川）
小笠原 舞 山形県PTA連合会前理事（母親副委員長）
庄司 和敏 山形県PTA連合会前監事

令和3年度優良PTA山形県教育委員会表彰

- 村山市立富本小学校PTA
上山市立南中学校PTA
山形市立第三中学校PTA
山形市立第二小学校PTA
新庄市立新庄小学校PTA
長井市立致芳小学校父母と教師の会

令和3年度第43回全国小中学校PTA広報紙コンクール

- （日本PTA奨励賞・山形県PTA会長賞）
真室川町立真室川北部小学校PTA「みらい」
鶴岡市立朝陽第三小学校PTA「朝光」
鶴岡市立櫛引東小学校PTA「くろあざみ」
酒田市立松原小学校PTA「まつばら」
酒田市立亀ヶ崎小学校PTA「ひなづる」
酒田市立琢成小学校PTA「琢成」
米沢市立第四中学校教育振興会「城北だより」
新庄市立新庄中学校父母と教師の会「木かげ」
最上町立最上中学校PTA「PTAだより」
酒田市立第一中学校PTA「絆」
- （山形県PTA会長賞）
山形市立第四小学校奨学会「いちよう」
大蔵村立大蔵小学校PTA「おおくらっ子」
南陽市立赤湯小学校父母と教職員の会「さくら」
山形市立第五中学校PTA「ひまらや杉」

楽しい子育て全国キャンペーン三行詩コンクール

- 厚生労働大臣賞 レイニング 快里（左沢小）
佳作 齋藤 世弥（大石田北小）

令和3年度山形県PTA連合会会長表彰

- 感謝状（令和2年度県P役員退任者）
佐藤 博之 園部 幸春 金子 一志
茂木 健 黒田 紀章 阿部 秀顕
高橋 臣也 佐藤 大輔 安部 直樹
鈴木浩一郎 後藤 春雄 阿部 一道
小笠原 舞 寺嶋 一郎 庄司 和敏
村山 良光

表彰状（郡・市P連より推薦）

- 安食 克彦 小林 一善 藤倉 大輔
森谷 輝文 樋口 淳 柴崎 元実
中里 浩也 山木 美奈



第70回 日本PTA全国研究大会
第54回 日本PTA東北ブロック研究大会

山形大会

令和4年 分科会 8.26(金) 全体会 8.27(土)

大会スローガン:『人とひとのつながりを体感しよう!』

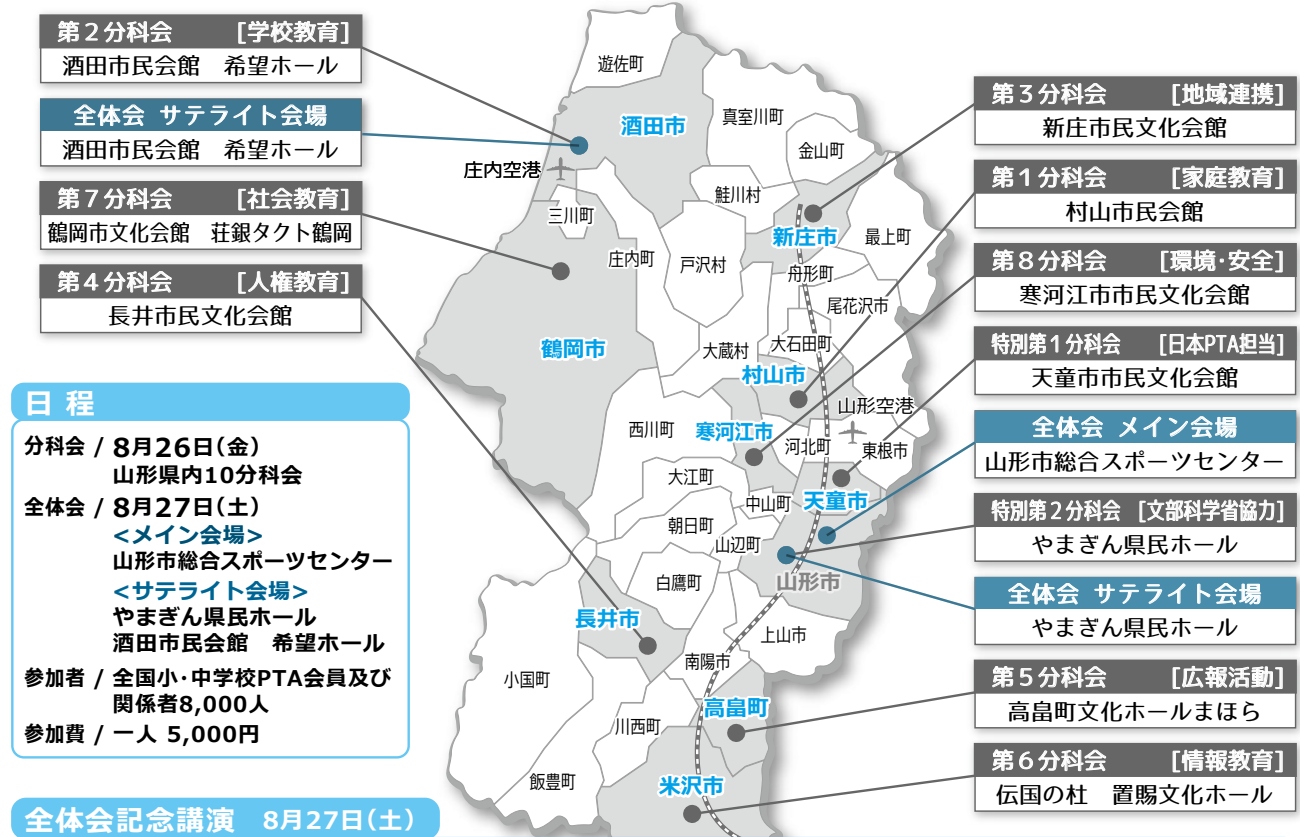
大会趣旨

～あがらっしゃい精神の山形から～

「Withコロナ」に生きる。
新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより世界は一変し、未知のウイルスが存在することを前提とした社会に共存することとなり、誰もが好むと好まざるとにかかわらず新しい生活様式への変容を余儀なくされ、私たち大人も適応していくことが困難な時代となりました。
私たちは、人とひとの「つながり」の中で生きています。その「つながり」とは、先祖代々からの「いのち」のバトンをつなぎ、「ふるさと」を愛し未来に心をつなぐこと。PTAは、家庭と学校そして地域をつなぐ大きな役割を担っています。子どもたちの健やかな成長には、家庭や学校はもとより地域とかわり、社会性をまなぶことが必要です。多くの人とひとの「つながり」があって生きる力を「まなぶ」のです。
「Withコロナ」の時代、自由に集えないなどその「つながり」が希薄になり、気付くことすら難しい状況となっています。当たり前と感じていた「つながり」は、当たり前ではなかったことに気づかされました。PTAの目的は、より良い社会を目指し活動をしています。そのために子どもたちの健全育成が必要であり、さらに家庭・学校・地域のつながりをより強いものにしなければなりません。そのつながりは、創られるものではありません。私たちPTAが積極的に創っていくものなのです。
俳聖・松尾芭蕉の「奥の細道」における山形県の出羽三山の旅は、心の旅といわれるように、いにしへの時代から山形県は人とひとの心をつなぐ「あがらっしゃい」の精神が色濃く残るおもてなしの地であります。このおもてなしの地、山形で、そして70回目の節目を迎える本大会で、わが国最大の社会教育関係団体としての自覚と責任を持ち、すべてのPTA会員が人とひとの「つながり」の大切さを体感出来る絶好の機会を共に創りましょう。

メインテーマ

- ・「いのち」のつながりを感じ、次代につなぐPTA活動
- ・「ふるさと」を愛し、心をつなぐPTA活動
- ・生きる力を「まなび」、次代につなぐPTA活動
- ・多様な「つながり」から、子どもたちの未来を切りひらくPTA活動



日程
分科会 / 8月26日(金)
山形県内10分科会
全体会 / 8月27日(土)
＜メイン会場＞
山形市総合スポーツセンター
＜サテライト会場＞
やまぎん県民ホール
酒田市民会館 希望ホール
参加者 / 全国小・中学校PTA会員及び関係者8,000人
参加費 / 一人 5,000円

全体会記念講演 8月27日(土)



飯森 範親氏

【プロフィール】
桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリンとミュンヘンで研鑽を積み、94年から東京交響楽団の専属指揮者、モスクワ放送交響楽団特別客演指揮者、広島交響楽団正指揮者などを歴任。96年の東京交響楽団ヨーロッパツアーでは「今後、イモリの名が世界で注目されるであろう」と絶賛された。その後、同楽団とは正指揮者として密接な関係を続け、現在は特別客演指揮者。03年、NHK 交響楽団定期演奏会にマーラーの交響曲第1番でデビューを飾る。06年度 芸術選奨文部科学大臣新人賞。海外ではフランクフルト放送、ケルン放送、チェコ・フィル、プラハ響などに客演を重ねる。01年よりドイツ・ヴェルテンベルク・フィルの音楽総監督(GMD)に就任し、ベートーヴェンの交響曲全集を録音。日本ツアーも成功に導いた。東京交響楽団特別客演指揮者、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者。2014年シーズンから日本センチュリー交響楽団首席指揮者、2007年山形交響楽団音楽監督、2019年シーズンより同楽団芸術総監督に就任。2020年1月より東京佼成ウインドオーケストラ首席客演指揮者、同年4月より中部フィルハーモニー交響楽団首席客演指揮者。2021年4月より東京ニューシティ管弦楽団ミュージック・アドヴァイザー（次期音楽監督）に就任。2020年10月、新国立劇場のシーズンオープニング公演であるプリテンのオペラ「夏の夜の夢」を指揮、好評を博し大成功を収めた。

第70回 日本PTA全国研究大会 山形大会実行委員会事務局 〒990-2221 山形市大字風間字地蔵山下2068 弘栄設備工業株式会社内
TEL 023-676-8693 FAX 023-676-8694 Email : yamagata70@ymgt-pta.jp

山形県PTA連合会安全互助会から

安全互助会は山形県PTA連合会事業の一環として運営されています。
関係各位・保護者の皆様のご協力に感謝申し上げます。

山形県自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例

《条例の主な内容》

◎交通ルールの遵守 ◎自転車の安全利用 ◎自転車保険の加入義務化
◎自転車交通安全教育の充実 ◎自転車の適正な管理

※その中の第12条自転車損害賠償保険等への加入については、令和2年7月1日から施行されました。
児童・生徒の自転車での事故による損害については安全互助会に加入していることで補償の対象となります。
未加入の学校PTAは是非ご検討下さい。

安全互助会ってなあに？

～加入については学校PTAごとになります～

- *補償内容によってA・B・C・特A・特B・特Cの6コースがあります。
- *児童・生徒の学校管理下外のけがや、偶発の事故での賠償事故を補償します。
- *PTA行事中の会員(児童・生徒・保護者・教職員)の傷害事故・賠償事故を補償します。

▽近年の賠償事故の件数・支払金額増加傾向の対策として、賠償補償限度額1,000万円のコースをおすすめします。

・安全互助会加入校のうち7割を超える学校PTAが○特A・B・Cの賠償補償額1,000万円のコースに加入されています。
特に人身事故は医療費の全額が請求されたり高額になる場合があります。万が一の事故に備え是非ご検討下さい。

▽子どもが自転車に乗るときはヘルメットを着用させましょう。

・ヘルメット着用は努力義務です。ヘルメット着用を習慣化し、子どもたちを重大事故から守りましょう。

▽事故の未然防止が一番大切です。

- ・傷害事故の中でスポーツやクラブチーム活動中の事故が最多となっています。
- ・登下校や外出時は安全確認の声掛けで注意喚起し、事故防止にご協力下さい。



加入 265 校の内訳		
A	68	特A 184
B	2	特B 9
C	1	特C 1

傷害事故支払状況 (単位: 千円)					
年度	件数	児童・生徒	件数	PTA 傷害	
平成30年度	1,111	9,973	47	2,741	
令和元年度	1,032	9,717	45	2,514	
令和2年度	998	10,398	3	1,618	
令和3年度	906	8,373	0	0	

賠償事故支払状況 (単位: 千円)		
年度	件数	PTA 傷害
平成30年度	67	3,862
令和元年度	74	3,839
令和2年度	42	1,903
令和3年度	50	2,811



タブレット端末等の破損について

学校から持ち帰ったタブレットを自宅で誤って壊した場合、他人から借用した時点でその借用物に対する管理責任が生じるため、保険金のお支払い対象外となります。

令和3年度 山形県PTA連合会役員名簿

職名	氏名	所属	学校名	職名	氏名	所属	学校名
会長	船橋 吾一	山形市PTA連合会	蔵王一中	理事	齋藤 嵩史	酒田飽海PTA連合会	松原小
副会長	武田 靖裕	山形市PTA連合会	鈴川小	理事	高見 佳澄	県P母親委員会(委員長)	山寺小中
副会長	植松 大祐	北村山PTA連合会	楯岡中	理事	遠藤 愛	県P母親委員会(副委員長)	小国中
副会長	大熊 孝幸	西村山PTA連合会	河北中	理事	工藤 幸吉	県連合小学校長会	楯岡小
副会長	穴沢 洋一	西置賜地区PTA連絡協議会	小国中	理事	早坂 智	県中学校長会	附属中
理事	鈴木世志樹	上山市PTA連合協議会	上山南中	監事	井上 哲寿	山形市PTA連合会	山形一小
理事	阿部 明彦	天童・東村山地区PTA連合会	天童三中	監事	海野 裕喜	西村山PTA連合会	宮宿小
理事	柿崎 和朗	最上地区PTA協議会	新庄小	監事	栗原 宏之	県小中学校教頭会	山形五小
理事	丸川 信明	米沢市PTA連合会	松川小	事務局長	大江 昌信		
理事	島津 友幸	東置賜地区PTA連合会	吉島小	事務局員	佐藤 静子		
理事	五十嵐 孝	鶴岡市PTA連合会	羽黒中	事務局員	奥山 絢子		
理事	大川 真宏	東田川郡PTA連合会	三川中				

編集後記

「PTAやまがた」第四十六号をお届けします。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大により、様々な変化に対応しなければならなかった年でした。八月の日本PTA全国研究大会、九月の九州大会、九月の日本PTA東北ブロック研究大会、盛岡大会、十月の県PTA研修大会いずれもオンラインでの開催でした。中止も考えなければならなかったところもありましたが、「学びの歩みを止めない」という熱い思いから新しい形で開催することができました。単位PTAでも様々な工夫をしての活動ではなかったでしょうか。いよいよ今年の八月には日本PTA全国研究大会山形大会が開催されます。愛する子どもたちの健全な育成と幸福のために、そしてすべてのPTA会員が人とひとの「つながり」の大切さを体感出来る山形大会を共に創りましょう。皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。